

## 事例 7

市町・公民館等名	鹿沼市北押原公民館
事業名	「子育てサロン ポニー」の活動

### 1 事業を始めたきっかけ

平成 20 年、北押原地区福祉活動推進協議会から子育てサロンづくりの依頼があり、事業立ち上げの検討を考え始めた。事業化するまでに時間はかかったが、平成 22 年 4 月に、主任児童委員を中心に民生委員、ボランティア、そして教育委員会の協力により派遣された保健師を加えて「子育てサロン ポニー」を立ち上げた。現在、主任児童委員 2 人、民生委員会長 1 人、民生委員副会長 2 人、保健師 1 人、ボランティア 2 人の計 8 人というメンバー構成で、月 1 回（第 1 水曜）10:00～11:30 の子育てサロンを運営している。

### 2 活動内容

子育てサロンの活動をとおして、親子のコミュニケーションの場の提供、親の子育ての悩みを解消できる場の提供、「楽しい」空間の醸成を行っている。参加者には申込書を記入してもらい、参加者への継続的支援ができる体制を整える。

組織に保健師を配置していることは大きな特徴である。多動や身体の成長の遅れがある子どもをもつ親に対して、活動しているメンバーは聞き役に徹し、話をする役目である保健師に繋げている。それは、単にボランティアが経験で相談に乗るのではなく、保健師という資格を持つスタッフが支援することで、親がより安心して相談できかつ適切な支援のできる体制を整えておきたいという思いからである。また、外部機関に繋げる必要性があると判断される場合には、できる限りコミュニケーションを積み重ねて信頼関係を築いた後、話をするようにして、親の心に寄り添った活動にしている。プログラムは月別に応じてアイデアを出し合い、手作りを基本としている。

### 3 成果と課題

#### ○成果

- ・子どもたちだけでなく、親たちが楽しい空間を作ることで、また足を向けてもらえるようになり、適切な支援につながる。親の心の中に「安心感」が生まれている。
- ・口コミで評判が広まり、北押原地区に限らない親子が集まっている。また、兄弟で参加する親子も多い。

#### ○課題

- ・参加者の年齢（月齢）に合わせたプログラムの精選。
- ・勤めてしまうと難しいが、参加しているママに運営側にまわってほしいので、卒業していく際には、声を掛けている。

#### 4 その他

##### ○今後の活動

・組織の中で、1人ひとりが責任と自信を持って活動できるよう、代表は3年で改選している。

(調査協力：子育てサロン ポニー 兼目千恵子)



親子体操



ブロックで遊んじゃおう



大きな落下傘だよ～